

平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果について

鳥羽市 平成 27 年度全国学力・学習状況調査結果の概要と分析について

平成 27 年 4 月 21 日（火）に、市内の小学校 6 年生（9 校 147 人）と中学校 3 年生（5 校 137 人）を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。その結果の概要と分析について以下の通りまとめました。

本調査により測定できるのは児童生徒の学力の一部分ではありますが、教育施策や各学校における指導の充実・改善に役立てることが本調査の目的であることから、結果を踏まえ本市での教育の一層の充実を図っていきます。

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全市的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する目的で実施されています。

2 調査の対象および実施した公立学校数・児童生徒数

区分	小学校第 6 学年	中学校第 3 学年
学校数	9 校	5 校
児童生徒数	147 名	137 名

3 調査の内容

（1）教科に関する調査

国語 A 算数・数学 A	身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）を中心とした出題
国語 B	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のために構想をたてて実践し、評価・改善する力な

算数・数学B	どに関わる内容（主として「活用」に関する問題）を中心とした出題
--------	---------------------------------

（２）質問紙調査

児童生徒質問紙	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校質問紙	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況等に関する調査

４ 調査の方式

全数（悉皆）調査

５ 調査日

平成２７年４月２１日（火）

Ⅱ 鳥羽市における教科に関する調査結果の分析

1 H27 年度の結果一覧

学 年	項 目	市・国	国語		算数・数学		理科
			A 「知識」	B 「活用」	A 「知識」	B 「活用」	
小	平均正 答率 (%)	鳥羽市	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて やや低い
		三重県	68.0	65.3	74.8	44.1	59.2
		全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
中	平均正 答率 (%)	鳥羽市	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて やや低い	全国と比べて ほぼ同じ
		三重県	75.0	64.3	64.3	40.6	51.9
		全国	75.8	64.4	67.4	41.6	53.0

*平均正答率については、全国、三重県、鳥羽市いずれも公立校のみの結果を集計した値です。

*平均正答率概要については、全国と鳥羽市の差異が±2.0ポイント以内を「ほぼ同じ」、±2.0～4.0を「やや高い・低い」と表しています。

*理科については、「知識」と「活用」の問題が一体的に出題されました。

2 設問別集計から考察する強みと弱み（小学校）

	小学校 国語
強 み	・ 漢字を正しく読み書きすること。 ・ 要旨をまとめて書くこと。 ・ 話を聞く時の工夫に関すること。
弱 み	・ 主語を捉えることはよく出来ているが、照応関係から述語を捉えること。 ・ 引用文をさがす時に、全く違うところを選んでいことから、引用という言葉についての理解すること。 ・ 書き出しを決めておいたり、条件を決めておいたりして書くこと。

	小学校 算数
強 み	・ 基礎的な計算の力に関すること。 ・ 分度器を使つての角度の読み、角度の大きさについて見当をつけること。 ・ 数量や図形についての基本的な知識理解。特に面積を求めること。
弱 み	・ 数量関係を適切に捉え条件から立式すること。検算をすること。 ・ 面積の大きさを求めることはできるが、二つの図形を比べ、等しかったり違ったりする理由を説明すること。 ・ いくつかの条件を満たして解答する場合に、すべての条件を満たして解答すること。

	小学校 理科
強 み	・ 自然事象についての知識に関すること。 ・ 日々の生活や授業での体験を通して知識を体得していること。
弱 み	・ 物質やエネルギーに関する知識理解に関すること。 ・ 器具の名前や器具の使い方に関すること。 ・ グラフをもとに考察し、その内容を記述すること。

3 設問別集計から考察する強みと弱み（中学校）

	中学校 国語
強 み	・ 漢字や語句の意味など言葉の基礎に関すること。 ・ 表現の工夫やについて自分の考えを書くこと。
弱 み	・ 話すこと・聞くことに関わり、特に伝えることについて伝えたい事柄を捉え、文章の構成について説明すること。 ・ 多数の情報の中から、題意（条件）にふさわしいものを取捨選択する力、要旨を総合的に捉えること。 ・ いくつかの条件を満たして解答する場合に、すべての条件を満たして解答すること。問題文や図にわかったことを書き込んだり、線を引いたりすること。

	中学校 数学
強 み	・ 計算を正確にすること。 ・ 与えられた資料を活用して数値を求めること。 ・ 合同条件や記号の理解に関すること。
弱 み	・ 与えられた条件から数式を求め、予想された事柄について成立するかしないかを説明する数の性質理解や記述すること。 ・ グラフを事象に照らし合わせて解釈したり、事象に照らし合わせてグラフ作成したりすること。 ・ 図形の特性を生かして新たな性質を見出したり、発展的に考えていくこと。

	中学校 理科
強 み	・ 観察・実験の技能に関すること。 ・ 自然現象についての知識・理解に関すること。 ・ 課題に対して適切な考察を記述すること。
弱 み	・ 気温による飽和水蒸気量の変化と湿度の変化を関連付けて考えること。 ・ モデルを使った実験と自然の事物・現象とイメージを結び付けて考えること。 与えられた条件から数式を求め、予想された事柄について成立するかしないかを説明する数の性質理解や記述すること。

Ⅲ 児童生徒用質問紙調査（H19 からの経年変化を含む）から考察する鳥羽市の傾向

- 普段（月～金曜日）、1 日当たり 3 時間以上、テレビやビデオ・DVD を見たり、きいたりする（テレビゲームをする時間は除く）と答えた小学校児童の割合が増加傾向にあり、全国（36.1%）を上回る。
- 普段（月～金曜日）、1 日当たり 3 時間以上、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をすると答えた中学校生徒の割合が昨年度より若干の減少は見られたが全国（20.5%）を上回る。
- 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1 日当たり 1 時間以上、勉強をする（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）と答えた小学校児童の割合が減少傾向にあり、全国（62.7%）と比べまだまだ少ない。
また、1 日あたり 2 時間以上と答えた中学校生徒の割合が改善されてきたものの全国（35.7%）を下回る。
- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たり 1 時間以上、勉強をする（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）と答えた小学校児童の割合が改善されてきたが、全国（56.1%）に比べるとまだまだ少ない。一方で、2 時間以上と答えた中学校生徒の割合が大幅に増加し、全国（41.7%）を上回る。

Ⅳ 学校質問紙経年変化からみる傾向と考察

- 平成 26 年度の全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたかという問いに対し、中学校において、よく活用している比率が上がってきている。小学校においてもより活用していく必要がある。小中各学校において、自校の学力・学習状況調査から見える成果と課題及び解答類型から見える児童生徒の実態を学校全体で把握し、全ての教科指導や教育活動全体を通して改善していくことが必要である。

Ⅴ 今後の取組・改善方策

- （１） 鳥羽市教育振興基本計画が示す方向性を踏まえつつ、教育環境の充実を図る。
- （２） 調査の分析結果から児童生徒の学力や学習状況を把握し、日常の取り組みの成果と課題を検証することで、授業改善と学力向上の PDCA サイクルづくりに取り組む。

- (3) 「家庭学習の手引き」を活用し、家庭との連携により「予習→授業→復習」のサイクル確立をめざし、基礎的・基本的な力の定着を図る。
- (4) 鳥羽市全体としてのルール「学びの基本」をもとにした、各校のさらなる学習規律の確立を図る。
- (5) 日々の授業において、ゴール地点である振り返りの時間を今以上に明確に位置づけていく。